

はじめに

- * 今年度は、2025年の**地域包括ケアシステム**完成に向けて、介護報酬改定が行われた。
- * 通所リハビリにおいては、社会参加支援加算、リハビリテーションマネジメント加算Ⅱが新設され、通所リハビリからの卒業(社会参加)が求められている。
- * 今回**強化型デイケア**を目指して、QM活動に取り組んだので報告する。

強化型デイケアとは

1. 中重度者ケア体制加算の算定

要介護3・4・5の割合が30%以上を占めている

2. 社会参加支援加算の算定

H27. 4月から12月までの期間で以下の2つの算定要件を満たすことで、
H28. 4月からの算定が可能となる。

① 通所リハからの卒業(デイサービス等への社会参加)の割合が5%以上

② 回転率が25%以上



2つの要件を満たす通所リハが「強化型デイケア」と呼ばれ、社会参加を進める上では、「**リハビリテーションマネジメント加算Ⅱ**」の取得が重要であると言われている。

リハビリテーションマネジメント加算Ⅱとは

- * 心身機能のみならず、**活動及び参加面**のバランスのとれたリハビリテーションを、継続的に提供(管理)することによって、**社会参加を目指すもの**である。

【算定条件】

- **リハビリテーション会議**(以下リハ会議)の開催
- リハビリテーション**計画書の作成・見直し**
- 利用者へ**医師**が**リハビリ計画の説明**
- リハビリスタッフによる**訪問指導** 等

目標設定

1. 全利用者のリハビリテーションマネジメント加算Ⅱの算定
2. 次年度の社会参加支援加算の算定
3. 中重度者ケア体制加算の算定

「目標に向けての課題」

リハビリ要因

社会参加に向けた
リハビリの提供が少ない

リハ会議や居宅訪問に
あたるリハマンパワーが
足りていない

リハマネ加算Ⅱ算定のための
流れが分かりづらい

リハ会議や医師との連携業務を
行うスタッフがいない

本人、ご家族、リハ、CM、他事業所
と目標を共有する機会が少ない

連携要因

施設要因

医師の協力体制が
できあがっていない

社会参加を推進していくために
話し合いが行われていない

職員全体として、介護報酬改定や
社会参加への知識が不足している

利用目的がなく、
利用が長期化している

レスパイトとしての、
利用目的が多い

利用者・ご家族要因

重症度の軽い方が
多い状況

どの利用者が社会参加を
目指しているかわからない

社会参加支援加算算定
リハマネ加算Ⅱ算定の課題

対策の立案

重要要因	対策案	実現性	効果性	継続性	点数	優先順位
社会参加を進めていく 話し合いが行われていない	プロジェクトの立ち上げ、 検討会の実施	◎	◎	◎	9	1
リハマネⅡの算定の流れが 分かりづらい	リハマネⅡマニュアルの作成 管理表の作成	◎	◎	◎	9	2
リハビリスタッフの マンパワー不足	休日のリハビリ勤務体制の 見直し	◎	◎	◎	9	3
医師の協力体制が 出来ていない	医師に合わせた スケジュール調整	○	◎	○	7	4
リハ会議や医師説明の 連携調整者がいない	居宅CM、支援相談員への 連携調整業務依頼	○	◎	◎	8	5
社会参加を目指している人 が分からない	利用者の区分わけ	◎	◎	◎	9	6
利用者の利用目的がない	リハ会議や居宅訪問指導を 通しての、目的の明確化	○	○	○	6	7
職員の介護報酬改定や 社会参加への知識不足	施設方針の伝達、 研修会の実施	◎	○	○	7	8

対策の実施

項目	いつ	どこで	誰が	何を	どうする
プロジェクトの立ち上げ、 検討会の実施	H27. 4月から	強化型デイケア プロジェクト会議	各部署責任者	社会参加、リハマネⅡ 算定について	検討する
リハマネⅡマニュアル 管理表の作成	H27. 4月から		リハ責任者	マニュアルの作成 リハマネ管理表を	作成して、管理する
リハスタッフの休日勤務 体制の見直し	H27. 4月から			休日のリハ勤務数を 減らし	平日のリハマンパ ワーを増加させる
医師に合わせた、 スケジュール調整	H27. 4月から	施設内で	支援相談員	医師に合わせた、 リハ会議等の調整を	実施する
利用者の区分わけ	H27. 7月から	強化型デイケア プロジェクト会議	リハ、SW	利用者の社会参加に 向けた状況を	4段階に区分して 報告する
リハ会議や居宅訪問指導を 通しての、目的の明確化	H27. 4月	施設、利用者宅	リハ、SW、CM	社会参加に向けた、 具体的な目標設定を	利用者、ご家族と 共有する
施設方針の伝達、 研修会の実施	H27. 4月	施設内で	各部署責任者	施設方針や介護報酬 改定について	研修会を実施する

対策：リハマネⅡのマニュアル、管理表

リハマネⅡの流れ（マニュアルに沿って、行動）

利用前	利用前(利用同月)	利用開始	利用翌月(翌月以降)
<p>①利用依頼(SW)</p> <p>②情報収集(SW) ・診療情報 ・ケアプラン</p> <p>③居宅訪問(リハ) ・原則、リハ会議前 ・※遅くとも利用後1月以内 ・利用者状況アセスメント ・ニーズ把握表聞き取り</p> <p>④計画書作成(リハ) ・SWの情報をもとに作成 ・リハ会議までに作成</p>	<p>⑤初回リハ会議 ・原則、利用開始前に実施 ・医師の都合に合わせて、施設内で実施 (利用者or家族、医師、リハは必須+CM、他事業者など) ※不参加者には、情報提供を行う</p> <p>⑥医師からの説明、同意 ※初回リハ会議を利用前にできない場合 ・利用開始日に、リハスタッフが仮計画書で説明・同意 ・2週間以内に、⑤⑥を終了させる</p>	<p>⑦サービス提供</p>	<p>⑧計画書見直し(リハ)</p> <p>⑨リハ会議 ・原則施設内。 (リハ、利用者or家族は必須+医師、CM、他事業者) ※不参加者には情報提供を行う</p> <p>⑩説明、同意 医師のサインをもらった後で、リハが実施。</p> <p>⑪算定後6月間は、毎月⑧⑨⑩ ※居宅訪問指導は、状態に応じて適宜(6月に1回程度)実施</p>

リハマネ管理表（毎月、リハ会議や説明同意等の実施状況を管理）

	氏名	要介護度	区分	リハマネ種類	起算日	リハマネⅡ①期限	リハマネⅡ②更新月	計画書作成	説明、同意	リハ会議実施日
1	A氏	要介護1	A群	リハマネⅡ①	H27.6月	H27.11月	2・5・8・11月	済	未	未
2	B氏	要介護2	C群	リハマネⅡ②	H27.4月	H27.9月	3・6・9・12月	済	済	済

対策：リハマンパワー不足に対して

H26年度休日勤務体制

- ・土曜日、祝日⇒4名体制
- ・日曜日⇒1名体制

検討策

- ・介護報酬改定で、通所個別リハビリが包括化された事も考慮して、休日の通所個別リハビリ提供を廃止、休日勤務者数を減少

H27年度休日勤務体制

- ・土曜日、祝日⇒2名体制
- ・日曜日⇒1名体制

平日のリハマンパワー増加へ

対策：医師に合わせたスケジュール調整

平成27年6月 通所リハ計画書説明スケジュール							
日	月 (A 医師) 時間	火 (B 医師) 時間	水 (A 医師) 時間	木 (B 医師) 時間	金 (A 医師) 時間	土	
		1	2	3	4	5	6
	石● 佐●(ツ)馬● 仁●● 稲●中●	小● 白●●● 甲●(三)●中 日●(夕)田●	前●(家族来所) 若●(本人説明済)	阪● 西● 深● ●田	●田(嗣)		
7		8	9	10	11	12	13
	日●(任) ●本 ●藤(恒) ●久保	×	日●重●(家族来所)	×			

**支援相談員が中心となり、医師に合わせた、
リハ会議、利用者説明スケジュールを管理**

対策：利用者の区分分け

通所区分分け管理表

A群	利用終了時期が明確に決まっている方(社会参加支援加算を算定するための人員)
B群	確定はしていないが、社会参加の見込みのある方(A群になるようにアプローチを強化する方)
C群	要介護1、2で長期利用を希望されている方(稼働率維持の為の人員)
D群	要介護3、4、5の方(中重度者加算算定の為、長期利用を促す方)

	社会参加達成者	A	B	C	D	入院・入所・中止
目標人数	5	1		60	35	0
実人数	4	1	4	54	23	19
1	川●●堅 ②	鶴●保● ②	岩●●子 ①	阿●●アサ● ①	稲●●子 ③	深●●ミコ
2	松●ヒサ● ③		大●●智子 ②	浅●マサ● ①	大●公● ③	稲●●キ
3	福田● ②			荒●●子 ①	金●幹● ③	杜●ユ●●
4	●部●俊 ②		湯●明 ②	井●芳● ②	河●幸● ⑤	●高晴●②
5			大●二喜● ③	石●岩● ①	河●美代● ③	粂●●美①
6				犬●● ②	菊●清● ④	瀬●●キ●③
7				●井●●江 ②	清●●年 ④	中●●穂子③
8				蛭●●子 ①	谷●●佐 ⑤	小●●子 ①

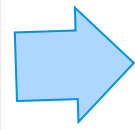
A～Dへ区分分けを行い、全利用者の状況を見える化
 どのような働きかけが必要かを提示

●●子 ①
 1●●正 ②
 三●●子 ②
 公●明● ①
 阿●●利 ②

対策：利用目的の明確化、自主練習の促し



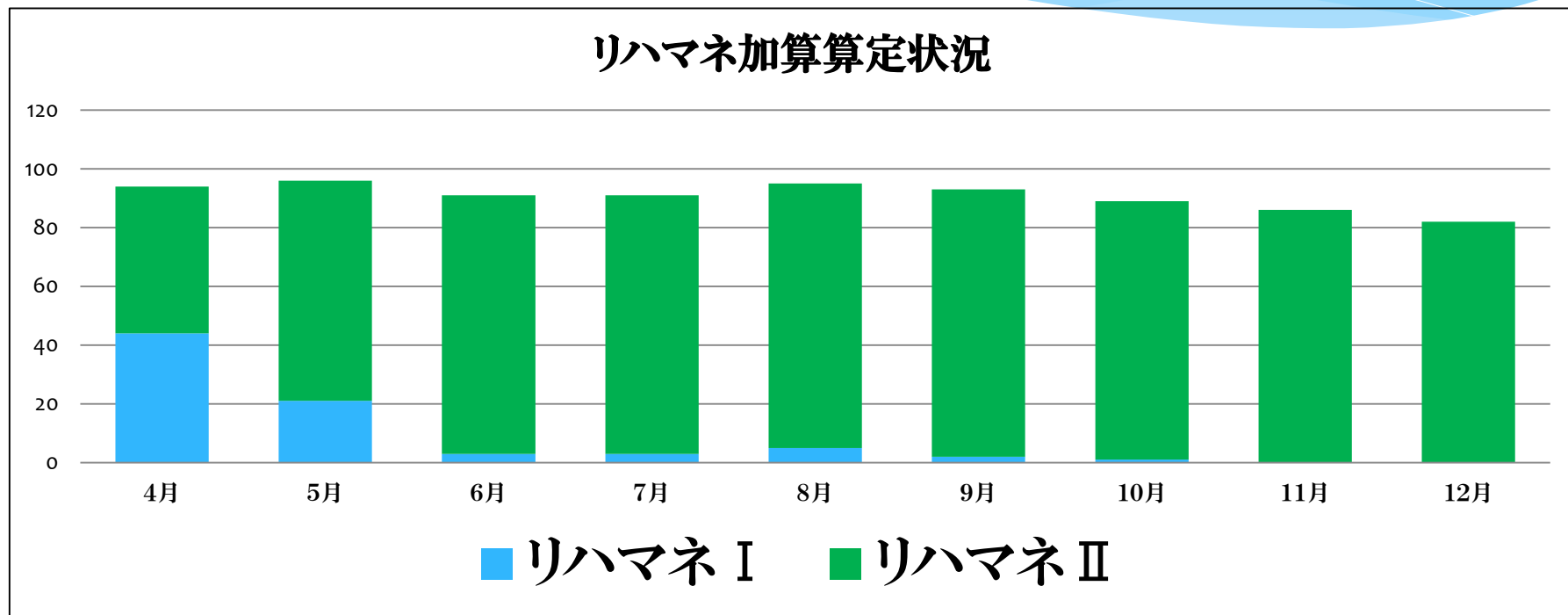
本人がやりたいことを、具体的な目標に設定して支援していく



転倒予防やADL練習、認知予防を中止としたサーキットトレーニングの導入

社会参加を見据えて、自主トレができるように支援

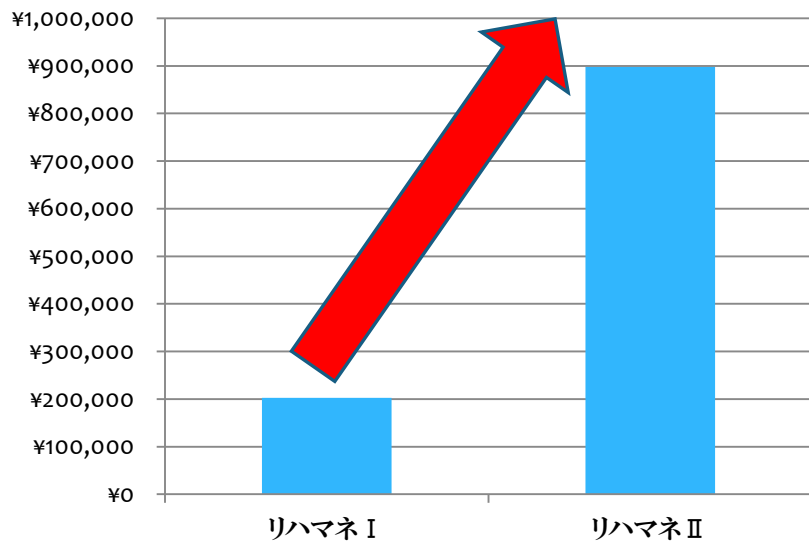
結果①：リハビリテーションマネジメント加算Ⅱの算定状況



6月時点で、ほぼ100%リハマネⅡへ移行。
その後も、継続的に、**リハマネ加算Ⅱ取得**を達成!!

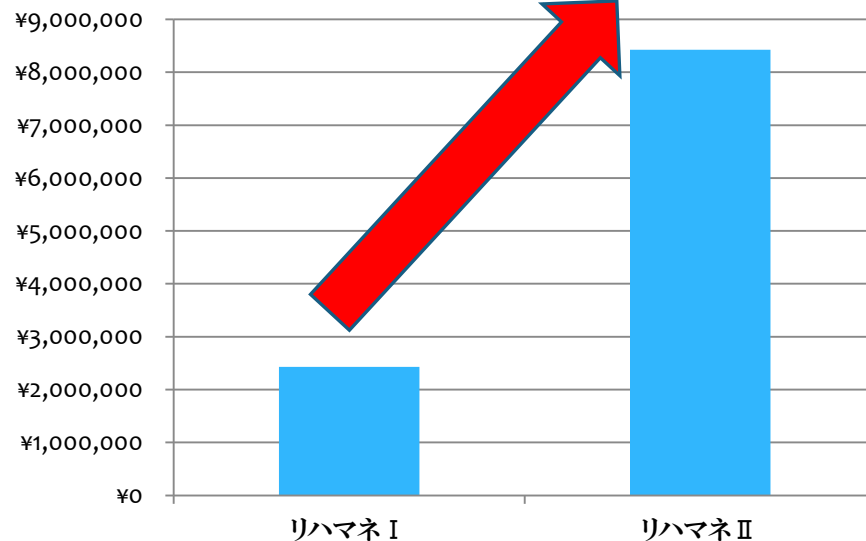
リハマネⅠとリハマネⅡを取った場合の収益試算

約70万円の増収!!



H27. 6月の実績値

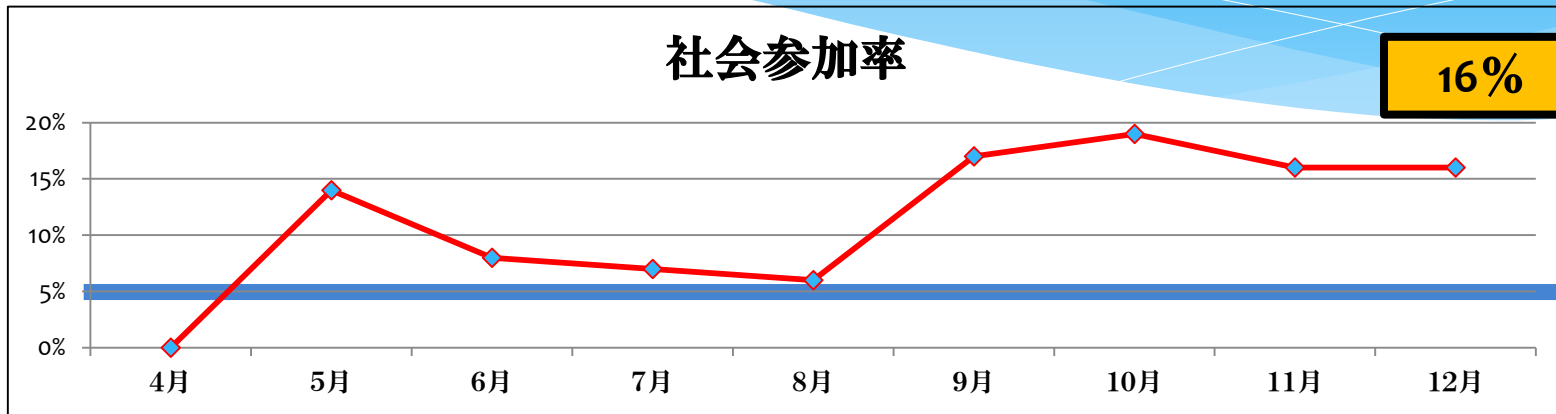
約600万円の増収!!



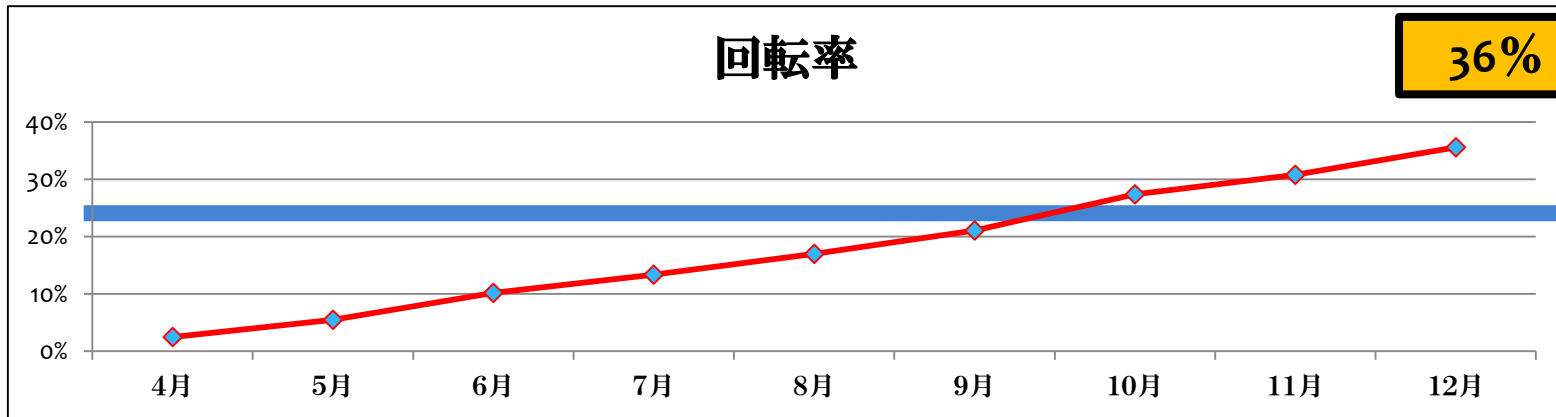
H27年度の年間収益試算

結果②：社会参加支援加算の状況

社会参加率

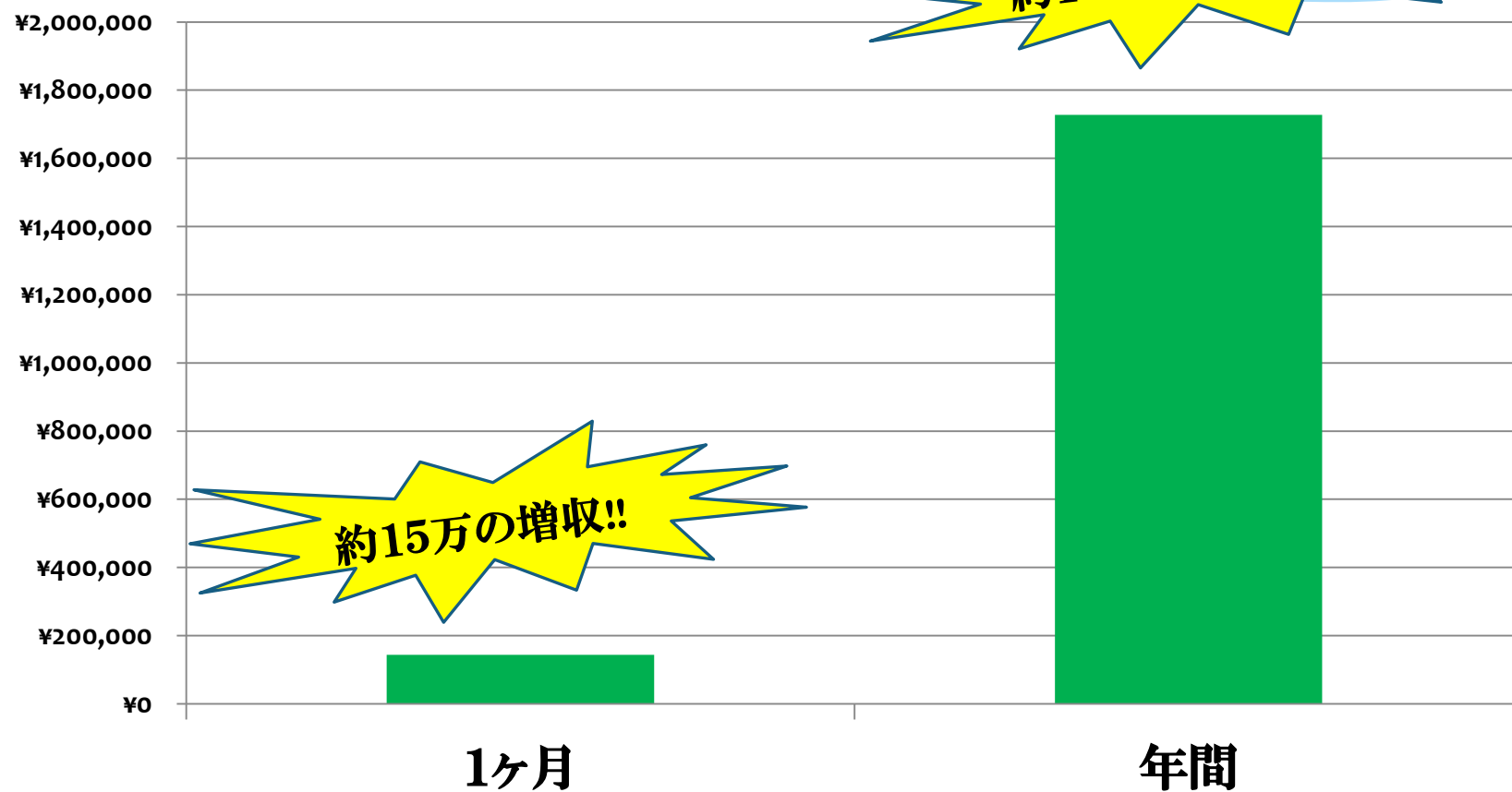


回転率

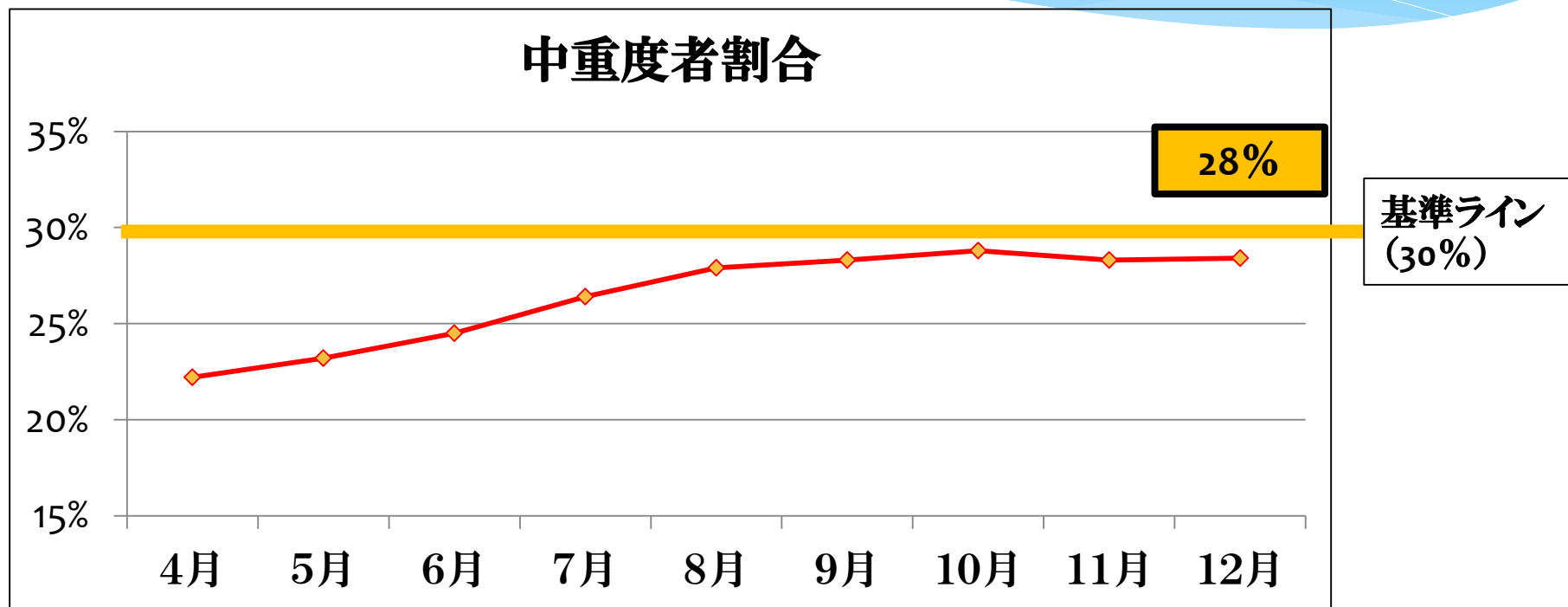


社会参加率、回転率ともに、算定要件を満たし、**次年度の社会参加支援加算の算定が決定!!**

社会参加支援加算を算定した場合の次年度収益試算



結果③：中重度者ケア体制加算の算定状況



徐々に中重度者割合が増えてきているが、
目標としている30%には届かず...

歯止め・標準化

項目	いつ	どこで	誰が	何を	どうする
強化型デイケアに向けての検討	月に1回	強化型デイケアプロジェクト会議	各部署責任者	強化型デイケア施設に向けて	検討を実施する
リハマネⅡの管理	毎月		リハ責任者	リハマネ管理表で	進捗状況を管理する
利用者の区分わけ	月に1回	強化型デイケアプロジェクト会議	リハ、SW	利用者の社会参加に向けた状況を	報告する
医師に合わせた、リハ会議等の調整	随時	施設、在宅	SW、CM	参加者の招集等の連携業務を	調整する
リハ会議や居宅訪問指導を通しての、目的の明確化	1～3ヶ月に1回	施設、利用者宅	リハ、SW、CM	社会参加に向けた、具体的な目標設定を	利用者、ご家族と共有する
職員の社会参加への意識付け	毎週	朝礼	管理者	強化型デイケア算定状況を	報告する
利用者の卒業(社会参加)の意識付け	随時	デイケア利用中	介護スタッフ、リハ	卒業式を	実施する

歯止め：職員の社会参加への意識付け

強化型デイケア 算定状況報告書

11月21日

1. 強化型デイケア状況

	目標値	現状	判定	詳細	
① 社会参加率	5%以上	9.1%	達成	社会参加達成者	4名
② 回転率	25%以上	41.3%	達成	新規終了者数	44名
				新規利用者数	34名
③ 中重度者率	30%以上	28.0%	未達成	要介護3・4・5人数 (現在)	23名

社会参加率、回転率、
中重度者率の達成度

2. 卒業決定者、卒業予定者

卒業決定者	鶴●保●(12月中)
卒業予定者	岩●●子、湯●明、大●二喜●

3. 卒業予定者状況

氏名	区分	進捗状況 (相談員記載)	卒業に向けての目標、課題等 (リハ記載)
鶴●保●	A	介護保険が12月満了であるため、年内卒業予定。	岡の総本山への旅行はクリアした模様。今後は、リハの方でも自宅でも自主練習を続けるように指導します。
岩●●子	B	卒業に向けてリハビリは順調。しかし、通所リハに慣れてきた所もあり、利用継続の希望が出てくる可能性もある。	目標は一人で調理ができることを目標としています。調理をする時、痛みなく動作が行えるよう耐久性の向上を図ります。具体的な卒業の目標は次回のリハ会議で話し合いたいと思います。(卒業期日は未定です)
湯●明	B	通所リハの利用は必要ないと感じており、実際に歩行状態も向上している。次回のリハ会議で卒業の話をしてく予定。	廊下についてH28.1.15までの予定でST中、その後はST判断となるため、卒業時期はそこ次第。
大●二喜●	B	来年より、ケアマネジャーを通して、デイサービスの体験を進めていく予定。	自主練習は週に2回は行っている。デイケア中でも家庭の自主練習は促し中。
佐●子●	B	一度、卒業の話をした時は受け入れ不良であったが、再度、話をしたらやや理解あり。リハ会議で話を進めていく。	デイサービスへの理解を息子に繰り返し進めていく。自宅内でも活動性が落ちているので、草むしりなど本人の出来る仕事を提案しようと呼称中。

AB群の方へは、社会参加に向けた、具体的な目標や課題、支援内容を記載

4. コメント

強化型デイケア算定状況報告書を作成しました!! 入所の在宅強化型施設に引き続き、通所も強化型デイケア目指して頑張っていきたいと思います!!
卒業予定者の状況等を記載していますので、各部署卒業に向けてケア、リハビリ等をお願いします!!

※毎週月曜日に更新していきますので、目立つところに貼ってみてくださいね

多職種で情報共有できるように
毎週朝礼で報告!!

卒業式の実施



社会参加者へは、デイケアでのリハビリを
称えて、卒業式を実施、卒業証書を授与!!

卒業式を実施する事で、他の利用者へも、
卒業(社会参加)を意識させていく

まとめと今後の展望

- * 今回、QM活動を通して、強化型デイケアを目指した結果、リハマネ加算Ⅱの算定、社会参加支援加算の算定が行えた。
- * 早期から、施設全体で対策検討会を繰り返し実施出来たことが、算定に繋がったと思われる。
- * 結果として、施設の収益向上に繋がった。
- * また、本人、ご家族を中心とした、多職種間の地域連携が深まったことも大きな収益となった。
- * 今後は、強化型デイケアに向けて、中重度者ケア体制加算の算定に向けて取り組んでいきたい。